

— 中 学 校 の —

学習指導

に 関 す る

実態調査

報告書 2005

教務主任・理科教員・社会教員に対する調査から

2005年11月

Benesse® 教育研究開発センター

中学校の学習指導に関する 実態調査 2005

報告書

教務主任・理科教員・社会教員に対する調査から

目次

c o n t e n t s

調査概要	4
1. 学習指導や学校での取り組み(教務主任調査)	
【解説】 調査結果から読み取れること	6
教育創造研究センター所長 高階玲治	
【データ】 ① 指導や取り組みへの賛否	8
② 全校的な取り組みについて	9
③ 全校的な取り組みについて<都道府県別分析>	10
④ 定期テスト実施状況	12
2. 理科の学習指導(理科教員調査)	
【解説】 調査結果から読み取れること	14
ベネッセ教育研究開発センター研究員 青柳裕子	
【データ】 ① 理科指導の中で感じる生徒の変化	16
② 日常の指導の中で感じること	17
③ 授業の進め方について	18
④ 発展的な学習の指導状況	19
⑤ 発展的な学習の実践例(自由記述より)	20
3. 社会の学習指導(社会教員調査)	
【解説】 調査結果から読み取れること	22
東京家政学院中学・高等学校校長 佐野金吾	
【データ】 ① 社会科指導の中で感じる生徒の変化	24
② 日常の指導の中で感じること	25
③ 授業の進め方について	26
④ 野外観察などの学校外の体験的な学習の実施状況	27
⑤ 学習指導要領外の内容の指導	28
4. 学力水準・学力格差に関する横断分析	
【データ】 学力水準・学力格差の調査間比較	30

調査概要

■ 調査テーマ

学習指導に関する実態（理科調査、社会調査）、学校での取り組み（教務主任調査）

■ 調査方法

郵送による自記式質問紙調査。FAXにて回収を行った。

■ 調査時期

2005年4月～7月

■ 調査対象

(1) 教務主任調査…全国の中学校の教務主任

（配布数9,461名、有効回答数3,170名、有効回答率33.5%）

(2) 理科調査…全国の中学校の中1・中2・中3の理科担当教員

（配布数28,275名、有効回答数6,627名、有効回答率23.4%）

★サンプルの内訳…1年2,524名（38.1%）、2年2,067名（31.2%）、3年2,036名（30.7%）

(3) 社会科調査…全国の中学校の中1・中2の社会科担当教員

（配布数18,922名、有効回答数3,569名、有効回答率18.9%）

★サンプルの内訳…1年1,976名（55.4%）、2年1,593名（44.6%）

1

学習指導や 学校での取り組み

(教務主任調査)

【解説】 調査結果から読み取れること

教育創造研究センター所長 高階玲治

1. 教務主任の職務と学習指導

最近の学校は学力向上に向けて多様な取り組みを行っている。教務主任は学校の教育課程の企画・立案、年間指導計画の作成など、学習指導の充実に向けて中心的な役割を担っている。また、最近の学校は多様な取り組み方や、特色ある教育活動など、他校とは異なった教育重点方針を行う場合も多い。

今回の調査は、毎年のように変わる学校の教育活動の重点事項などについて、学習指導の中心的な役割を担う教務主任の職務を通して学校の実態を明らかにする意図がある。

2. 全校的な取り組みの予定

調査項目の中で実施予定がきわめて高かったのは、「職場（企業や商店など）での体験学習」（87.2%）、「朝の読書活動」（81.2%）、「保護者や地域住民による学校評価」（80.7%）、「保護者や地域住民による授業支援（ゲスト講師など）」（72.1%）などである。

「朝の読書活動」以外はすべて地域との連携活動であって、地域との一体的な教育活動がかなり実践されていることとして注目される。

それに対して「市販の標準学力検査」「習熟度別授業」「地域や県などを単位とした学力テスト」は、学習指導に直接かわる実践であるが、「行う予定」はどれも6割台である。

そこで、都道府県によって差が見出されるかどうかを検討するために、都道府県単位で「行う予定」と回答した学校の比率を算出し、取り組みごとに分布を示したのが下の表である。数値は、都道府県の数を示す。「行う予定」と回答した学校の比率を見ると、「習熟度別指導」は30%台の県から80%台の県まで差がある。「市販の標準学力検査」と「地域や県などを単位とした学力テスト」は10%台から100%まで県ごとに実施率の差がみられた。このような格差は、単に学校のみの実施状況によるのか、それとも県等の施策の反映であると考えてよいのか、ともあれ大きな差が示されたことは確かである。都道府県によって地域格差がかなりみられることに十分留意する必要がある。

表 「行う予定」の都道府県別比較

内容 「行う予定」と 回答した学校の比率	習熟度別指導	市販の標準 学力検査	地域や県など を単位とした 学力テスト	放課後の補習 授業	土曜日の授業 や補習
90%以上	0	7	9	0	0
80%以上90%未満	6	10	7	0	0
70%以上80%未満	10	6	6	5	0
60%以上70%未満	10	8	7	8	0
50%以上60%未満	12	5	5	6	0
40%以上50%未満	8	7	7	10	1
30%以上40%未満	1	0	4	12	0
20%以上30%未満	0	3	1	5	1
10%以上20%未満	0	1	1	1	8
0%以上10%未満	0	0	0	0	37

注：数値は都道府県の数

次に、最近徐々に実施が見られるようになった「放課後の補習授業」や「土曜日の授業や補習」はどうであろうか。「放課後の補習授業」は全体の傾向では「行う予定」が46.3%で半数以下であ

るが、都道府県によって10%台から70%台まで差がみられた。また、「土曜日の授業や補習」を「行う予定」は、全体では9.7%と1割にも達していなかったが、40%台や20%台の県もあった。東京都は40.1%の学校が「行う予定」と回答しており、抜きん出て高かった。次いで奈良県が20.0%で、10%台は福岡県、広島県、大阪府、京都府、神奈川県、三重県、兵庫県、長崎県であった。これらの都府県のうち、東京都、奈良県、福岡県、広島県、大阪府、京都府は、「放課後の補習授業」でも「行う予定」の学校がかなり多くなっている。このような動きが今後どのように広まるのか注目すべきことである。

3. 学力は低下し、格差が広がる

次に生徒の学力についての教務主任の認識である。「5年前と比べて、生徒の全体的な学力水準、学力格差はどう変わってきているか」という問いに対する判断であるが、「生徒の学力水準」については、「高まった」（「とても高まった」「やや高まった」の合計）が13.9%、「低くなった」（「とても低くなった」「やや低くなった」の合計）が48.8%であった。また、「生徒の学力格差」については、「大きくなった」（「とても大きくなった」「やや大きくなった」の合計）が52.2%、「小さくなった」（「とても小さくなった」「やや小さくなった」の合計）が5.8%であった。

つまり、5年前と比べて「生徒の学力水準は低下し、学力格差は広まった」とする認識が多くなっている。それだけ学校の指導が難しくなってきたということであるが、そこでこれからの指導体制の展開が課題になるといえる。

4. 学習指導の取り組みは充実できるか

つづいて、今後の学習指導のあり方についての教務主任の意向である。それを見ると、現在実施している教育活動や、新しい動きなどに関する判断傾向であるが、その内容によってかなりの差異がみられることに注目したい。

まず、「賛成」（「とても賛成」「やや賛成」の合計）の高い内容は、「基礎的な学力定着のための指導」97.8%、「発展的な学習」86.8%、「心の教育」83.9%、「キャリア教育と進路学習」77.0%、「保護者や地域住民による授業支援」76.9%などである。

それに対して「賛成」が少ないものは、「土曜日の授業や補習」で賛成13.4%、反対55.3%である。「学校選択制」「二学期制・二期制」はそれぞれ「賛成」が16.6%と20.6%であるが、どちらも「反対」は比較的少なく、むしろ「どちらともいえない」が4割以上である。メリット・デメリットについての判断が難しいのであろう。

それに対して現在実施中の「総合的な学習の時間」については、判断傾向は分かれている。「賛成」が34.4%、「どちらともいえない」が33.1%、「反対」が31.2%。また、「選択教科」については「賛成」が46.1%、「どちらともいえない」が30.1%、「反対」が22.6%であり、賛成がやや多いが半数には満たない。

このように見てくると、教務主任の判断として「基礎学力の定着」「発展的学習の導入」、そのための指導のあり方としての「習熟度別授業」を重視する傾向がみられる。また、それと同時に「心の教育」や「キャリア教育と進路学習」の重視がみられる。

しかし、「土曜日の授業や補習」にはかなり反対の意向が強く、「学校選択制」や「二学期制・二期制」に賛成する比率も低い。

一方、注目されるのは現在実施中の「総合的な学習の時間」についての判断傾向で、「賛成」「反対」が拮抗していることから、今後の実践的な取り組みを見直す必要性を示唆していると考ええる。

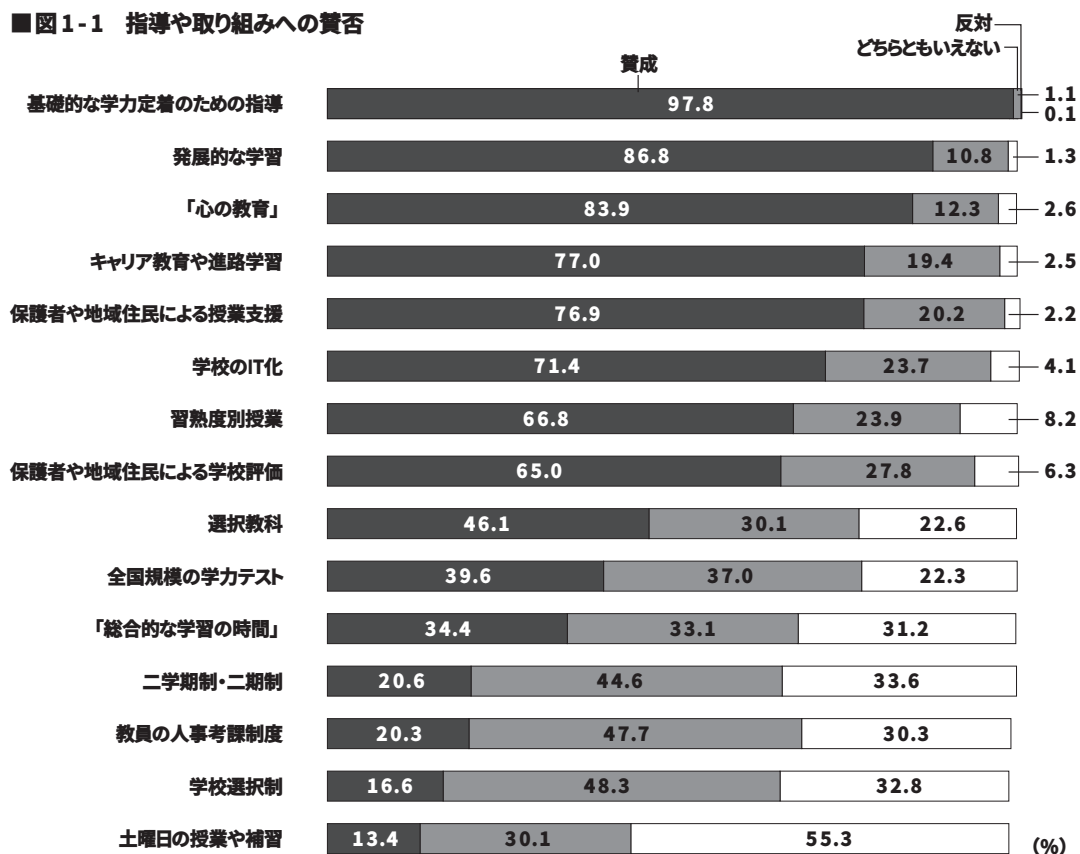
■【データ】①指導や取り組みへの賛否

8割以上の教員が基礎的な学力定着のための指導、発展的な学習、「心の教育」に賛成。

Q

あなたは、次のような指導や取り組みを実施したり、充実したりすることに、賛成ですか。

■図1-1 指導や取り組みへの賛否



※「賛成」は「とても賛成」「やや賛成」の合計、「反対」は「とても反対」「やや反対」の合計を示す。

「基礎的な学力定着のための指導」（「とても賛成」「やや賛成」の合計：97.8%）を筆頭に、「発展的な学習」（同：86.8%）、「『心の教育』」（同：83.9%）で8割を超える結果となった。「学校選択制」（同：16.6%）、「土曜日の授業や補習」（同：13.4%）では「賛成」は2割以下にとどまった。

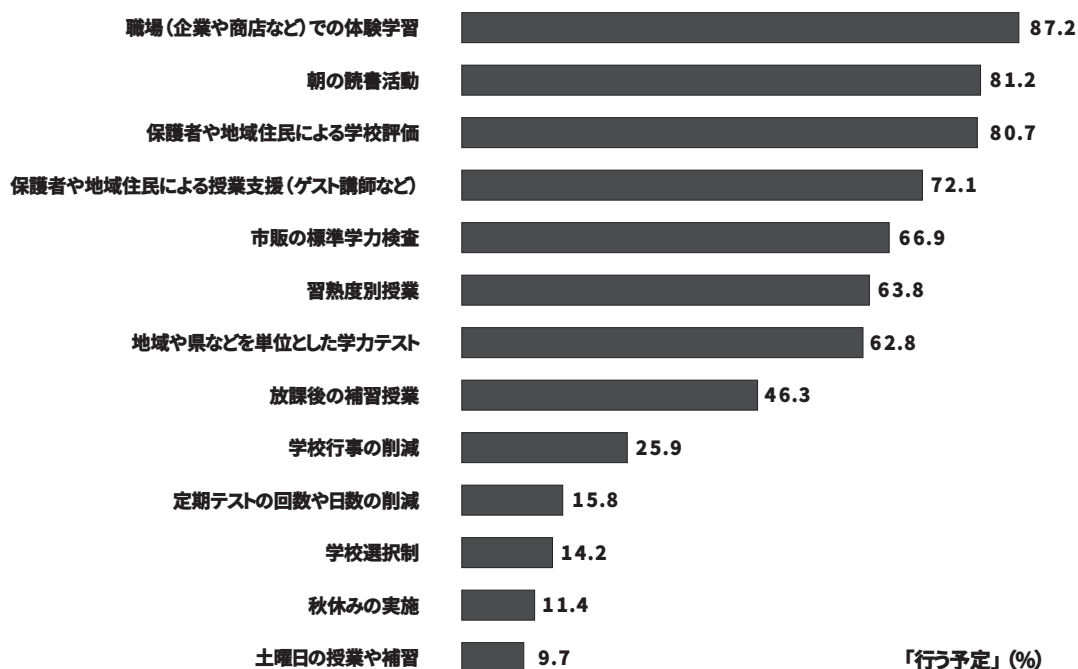
■【データ】②全校的な取り組みについて

職場での体験学習、朝の読書活動、保護者や地域住民による学校評価は8割以上が取り組む予定

Q

貴校では、今年度、全校的な取り組みとして、次のようなことを行う予定ですか。

■ 図1-2 全校的な取り組みについて



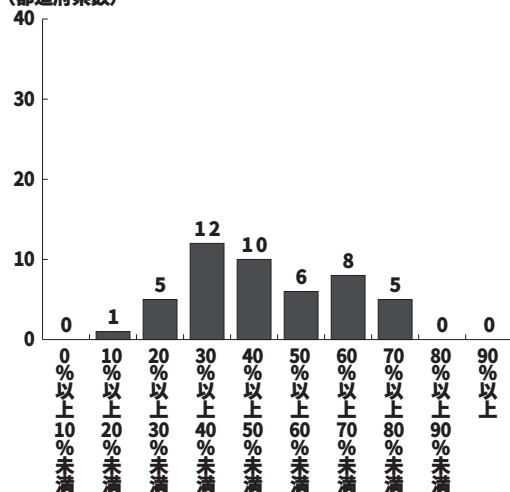
学校での取り組みの様子を、行う予定かどうかでたずねたところ、「職場（企業や商店）などでの体験学習」（「行う予定」：87.2%）、「朝の読書活動」（同：81.2%）、「保護者や地域住民による学校評価」（同：80.7%）で8割を超えた。「市販の標準学力検査」（同：66.9%）、「地域や県などを単位とした学力テスト」（62.8%）などの学力テストは6割を超える学校で行う予定であった。一方、「土曜日の授業や補習」（同：9.7%）、「秋休みの実施」（同：11.4%）では1割前後と低い結果となった。

■【データ】③全校的な取り組みについて〈都道府県別分析〉

「職場での体験学習」では「行う予定」と回答した学校が多い都道府県が多数を占める。

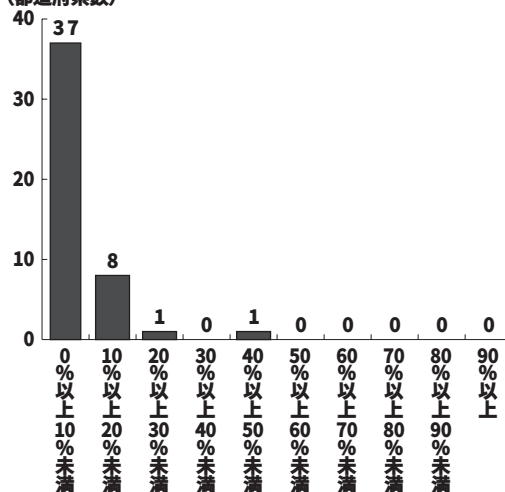
■ 図1-3 放課後の補習授業

(都道府県数)



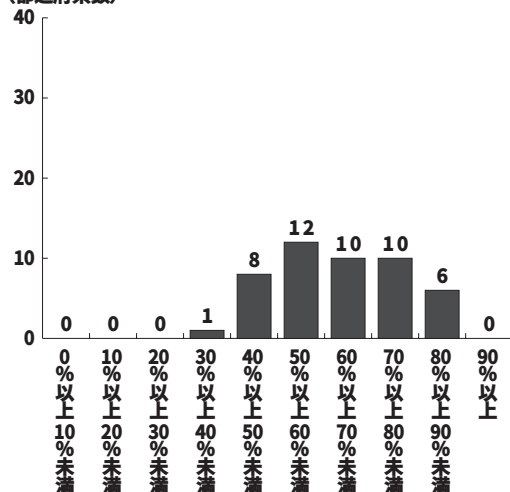
■ 図1-4 土曜日の授業や補習

(都道府県数)



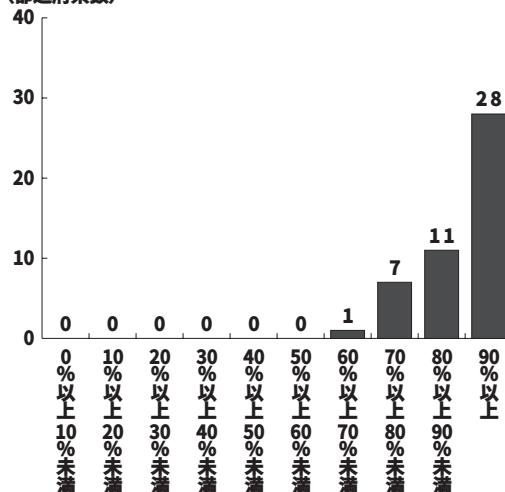
■ 図1-5 習熟度別授業

(都道府県数)



■ 図1-6 職場（企業や商店など）での体験学習

(都道府県数)



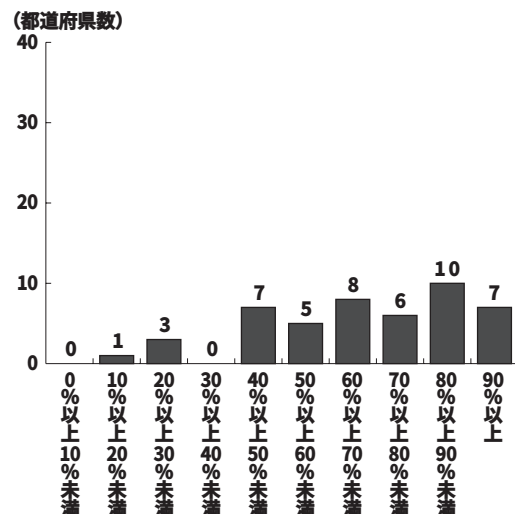
※調査に協力した学校の中で「行う予定」と回答した比率を都道府県ごとに算出した。図は、この都道府県内の実施率の分布を示し、数値は都道府県数を表す。

「放課後の補習授業」では、30%～70%の学校で「行う予定」と回答した都道府県が多い。「土曜日の授業や補習」は「行う予定」の学校が10%未満の都道府県がほとんどである。「習熟度別授業」は40%～90%の実施率に分散している。「職場（企業や商店など）での体験学習」では、90%以上の学校が「行う予定」としている都道府県が多い。

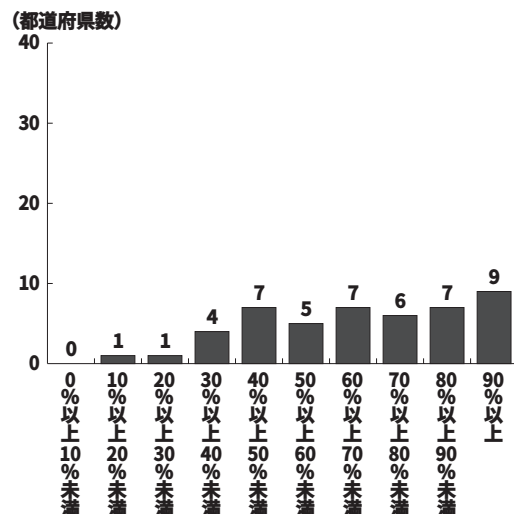
■【データ】③全校的な取り組みについて〈都道府県別分析〉

「保護者や地域住民による学校評価」「保護者や地域住民による授業支援」を「行う予定」の学校が各都道府県で多い。

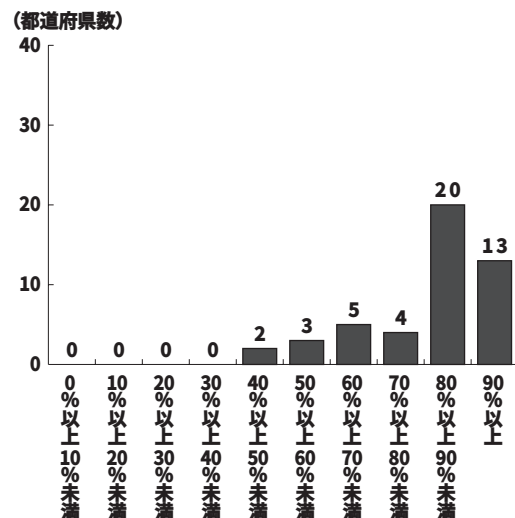
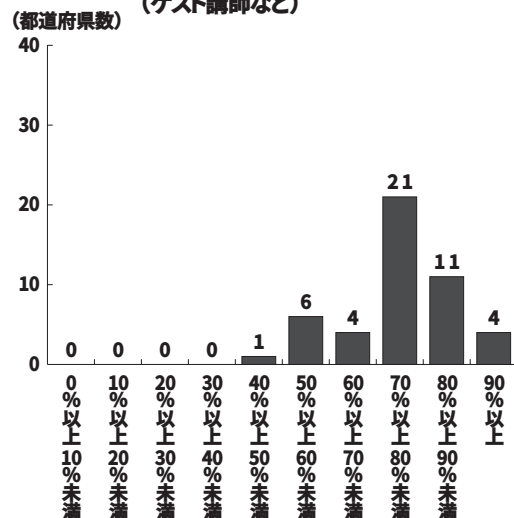
■ 図 1-7 市販の標準学力検査



■ 図 1-8 地域や県などを単位とした学力テスト



■ 図 1-9 保護者や地域住民による学校評価

■ 図 1-10 保護者や地域住民による授業支援
(ゲスト講師など)

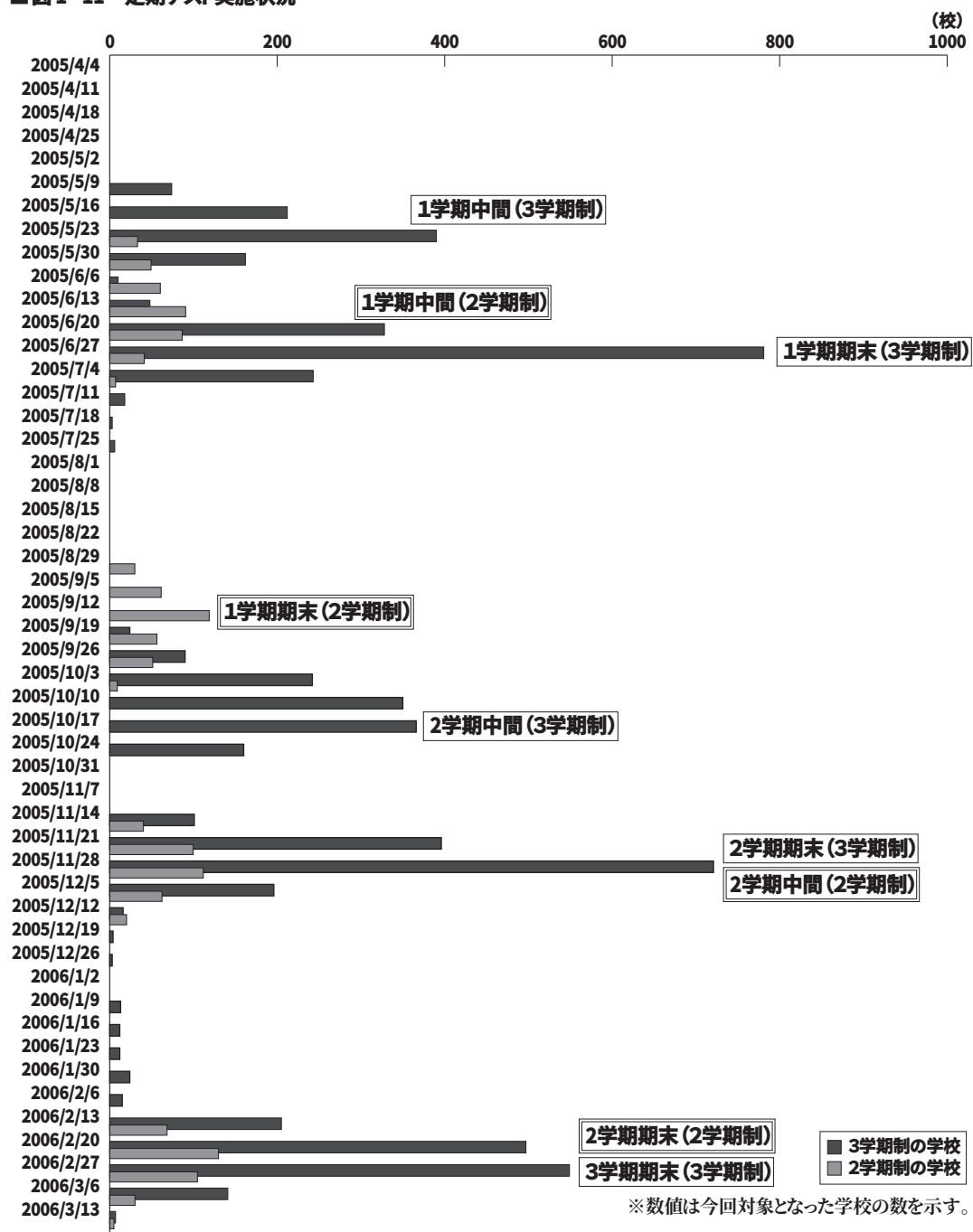
※調査に協力した学校の中で「行う予定」と回答した比率を都道府県ごとに算出した。図は、この都道府県内の実施率の分布を示し、数値は都道府県数を表す。

「市販の標準学力検査」「地域や県などを単位とした学力テスト」では、各都道府県によって「行う予定」の割合が分散している。一方、「保護者や地域住民による学校評価」「保護者や地域住民による授業支援（ゲスト講師など）」では、「行う予定」の学校が多い都道府県が目立つ。

■【データ】④定期テスト実施状況

3学期制の2学期期末テストと2学期制の2学期中間テストの実施時期が重なる。

■ 図1-11 定期テスト実施状況



2学期制は定期テスト実施の山が4回であり、3学期制よりも1回少ない。3学期制の2学期期末テストと2学期制の2学期中間テストの時期が重なるのは、高校受験に必要な内申書の作成時期と関連しているものと考えられる。

2

理科の 学習指導

(理科教員調査)

【解説】 調査結果から読み取れること

ベネッセ教育研究開発センター 研究員 青柳裕子

「理科ばなれ」という言葉が耳慣れて久しい。昨年末に公表された国際教育到達度評価学会（IEA）の国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）の結果では、「理科の勉強が楽しいか」を4つの選択肢（「強くそう思う」「そう思う」「そう思わない」「まったくそう思わない」）でたずねたところ、「強くそう思う」と答えた生徒の割合は19%で、国際平均の44%よりも25ポイント下回っており、国際的に見ても低い結果であった。また、「希望の職業につくために理科でよい成績を取る必要があるかどうか」についてたずねた結果、「強くそう思う」および「そう思う」と答えた生徒の割合は39%で、国際平均値の66%よりも27ポイント下回っていた。

こうした国際調査の結果からも、日本の中学生は相対的に見て理科に対する抵抗感をもっていること、学習内容が自分の将来に結びつくと考えていないことがわかる。学力低下だけでなく、子どもの意識の面でも日本の理科教育が大きな課題を抱えていることが浮き彫りになっている。

そこで、本調査では、全国の中学校で、1年生から3年生の理科を指導している教員を対象に、学習指導の実態を調査した。学力低下や理科嫌いが問題となる今、教員の視点から見ると子どもたちの理科の学力はどうなっているのだろうか。理科教育の抱える問題、学習指導の実態を明らかにするために、以下、調査結果から見えてきたことについて概略をまとめた。

1. 理科指導の中で、5年前と比べて最近の生徒がどう変わってきていると感じるか

ここでは、理科の学力規定要因として、「自然の事象に関する知識・理解」「自然の事象に関する関心・意欲」「観察や実験の技能」「論理的にものを考える力」「獲得した知識を成果として発表する力」「学習内容を生活にあてはめて考える力」の6項目を取り上げた。これらの項目はいずれも現代社会を生き抜く子どもたちにとって重視されなければならないものである。

新学習指導要領では、調べたこと、考えたことを表現する力が求められるようになったが、これを受けてか、「獲得した知識を成果として発表する力」で、「とても高まった」「やや高まった」の合計が他項目と比べて高くなっている。一方で、「論理的にものを考える力」では6割以上の教員が「低くなった」（「とても低くなった」「やや低くなった」の合計）と回答している。「観察や実験の技能」「自然の事象に関する知識・理解」「学習内容を生活にあてはめて考える力」でも4割以上の教員が「低くなった」と回答している。こうした状況の中、「理科の全体的な学力水準」では「とても低くなった」「やや低くなった」の回答の合計が5割を超え、2人に1人の教員が日常の指導の中で理科における生徒の学力低下を実感していることが分かる。さらに、「理科の全体的な学力格差」では、「とても大きくなった」「やや大きくなった」の回答の合計が3割強となっており、3人に1人の教員が学力格差の拡大を感じていることが分かる。全般的に見て、生徒の理科の力が低下している傾向にあるようだ（詳細は第4章「学力水準・学力格差に関する横断分析」を参照）。

2. 教員が日ごろ授業をしていて感じることは何か

「理科ばなれ」について、教員はどう感じているのだろうか。「子どもたちの『理科ばなれ』がすすんでいる」という項目について、4割の教員が「とても感じる」または「まあ感じる」と

答えている。このことから、半数弱の教員が子どもたちの「理科ばなれ」を実感していることが分かる。「子どもたちの自然体験の機会が減ってきている」（「とても感じる」「まあ感じる」の合計）と答えた教員は8割を超え、自然体験の不足を嘆く教員の姿が垣間見える。また一方で、指導の中で感じることは、「実験を行う時間が十分にとれない」「授業をどのレベルに合わせて進めればよいか悩む」と感じる教員が多いことがわかる。さらに、ゆとり教育を全面に出した「今の学習指導要領では指導内容が不足している」（「とても感じる」「まあ感じる」の合計）と感じる教員は8割以上にのぼった。これらの結果から、教員が充実した指導ができないことに悩みを抱えていることが推測される。

3. 発展的な学習として取り扱われる内容の実状

旧学習指導要領から削除された項目を、発展的な学習として授業の中で指導しているかをたずねた。いずれも選択理科ではなく、通常の授業の中で指導しているとする回答が多く、特に「フレミングの法則」（65.0%）、「日本の天気の特徴」（62.0%）、「遺伝の仕組みや遺伝の規則性」（42.1%）、「生物の進化」（34.2%）、「力とばねののびの関係」（33.2%）など、日常生活に密着した内容や、生徒が知っておくとその後の学習の理解が深まる内容の項目で高い結果となった。これらの結果から、旧学習指導要領から削除された項目でも、いまだに多くの教員が重要と感じており、必要に応じて生徒の理解を深めるための指導が行われていることがわかる。

総じて、今回の調査結果では、多くの教員が理科に関する学力低下、学力格差の拡大を感じており、それを克服しようとするために努力している様子が明らかになった。しかし、それらと同時に、現行の学習指導要領への不安や教員の極めて多忙な様子も垣間見える。

次頁以降の詳細分析では、それぞれの調査項目について、理科指導の実態を細かく見ていきたい。

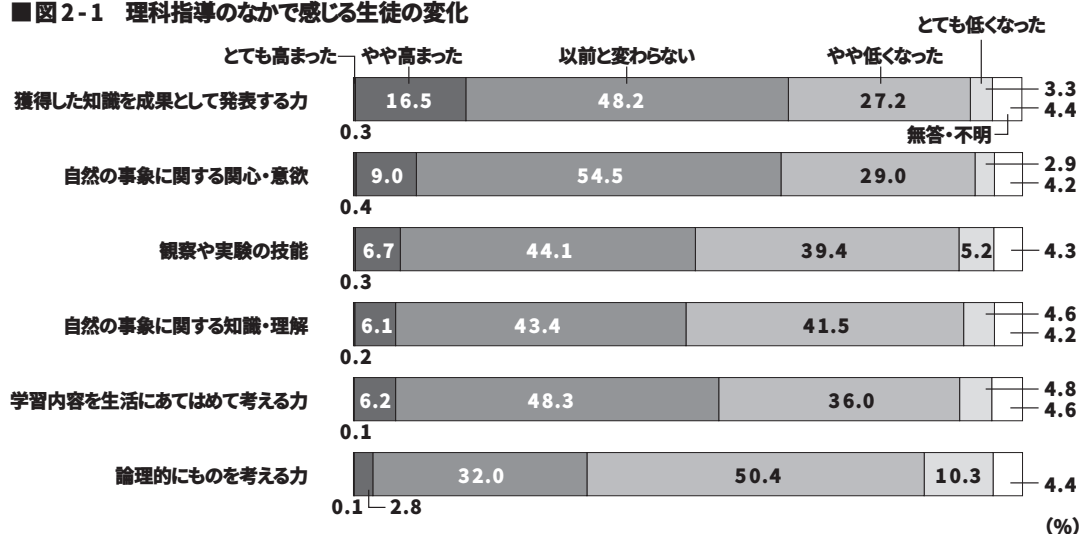
■【データ】①理科指導の中で感じる生徒の変化

「獲得した知識を成果として発表する力」は高まっているものの、「論理的にものを考える力」は低くなっている。

Q

理科をご指導されていて、5年前と比べると最近の生徒はどう変わってきていると思いますか。

■ 図 2-1 理科指導のなかで感じる生徒の変化



「獲得した知識を成果として発表する力」で「高まった」（「とても高まった」「やや高まった」の合計：16.8%）と回答する割合が他と比べて高い。一方で、「論理的にものを考える力」（「やや低くなった」「とても低くなった」の合計：60.7%）、「自然の事象に関する知識・理解」（同：46.1%）、「観察や実験の技能」（同：44.6%）などでは「低くなった」と答える割合が高い。

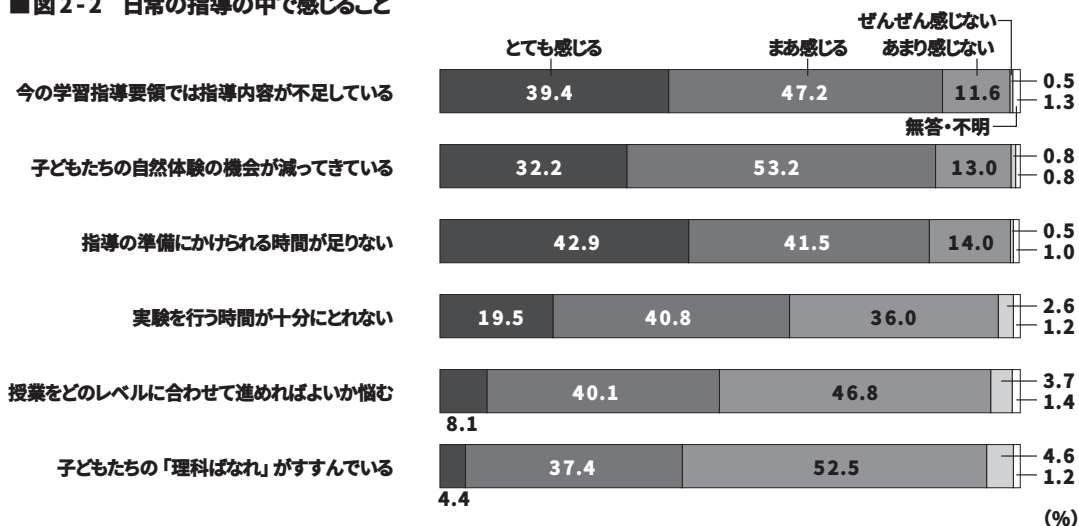
■【データ】②日常の指導の中で感じること

「今の学習指導要領では指導内容が不足している」と感じる教員が8割、「子どもたちの『理科ばなれ』がすすんでいる」と感じる教員が4割。



日ごろ授業をしていて、次のように感じることはありますか。

■ 図 2-2 日常の指導の中で感じること



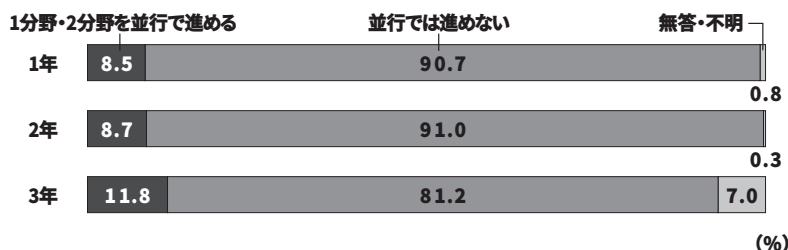
日ごろ授業をしていて感じることとして、「今の学習指導要領では指導内容が不足している」（「とても感じる」「まあ感じる」の合計：86.6%）、「子どもたちの自然体験の機会が減ってきている」（同：85.4%）、「指導の準備にかけられる時間が足りない」（同：84.4%）、「実験を行う時間が十分にとれない」（同：60.3%）で過半数を超えた。「子どもたちの『理科ばなれ』がすすんでいる」では、4割程度だった（同：41.8%）。

■【データ】③授業の進め方について

1分野・2分野を並行で進めない学校が各学年とも8割～9割。

Q 中1(中2・中3)では、どのように授業を進められる予定ですか。

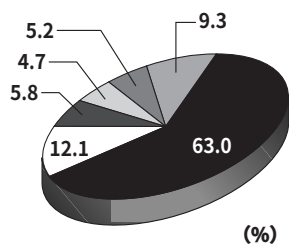
■ 図2-3 授業の進め方について



SQ 「並行では進めない」に○をつけた場合だけ、お答えください。それぞれどの単元をどのような順序で授業を進められる予定ですか。

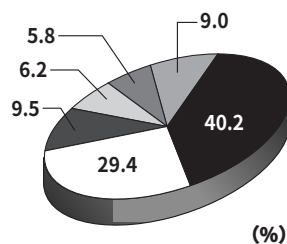
■ 図2-4 授業の進め方について

●1年



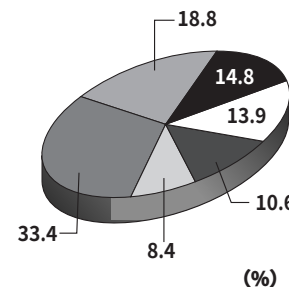
■ 植物の生活と種類→身近な物理現象→身の回りの物質→大地の変化
 □ 植物の生活と種類→身近な物理現象→大地の変化→身の回りの物質
 ■ 身近な物理現象→植物の生活と種類→身の回りの物質→大地の変化
 □ 身近な物理現象→植物の生活と種類→大地の変化→身の回りの物質
 ■ その他
 ■ 無答・不明

●2年



■ 電流とその利用→動物の生活と種類→化学変化と原子、分子→天気とその変化
 □ 動物の生活と種類→電流とその利用→化学変化と原子、分子→天気とその変化
 ■ 動物の生活と種類→電流とその利用→天気とその変化→化学変化と原子、分子
 □ 電流とその利用→動物の生活と種類→天気とその変化→化学変化と原子、分子
 ■ その他
 ■ 無答・不明

●3年



■ 生物の細胞と生殖→運動の規則性→物質と化学反応の利用→地球と宇宙→科学技術と人間→自然と人間
 □ 運動の規則性→生物の細胞と生殖→物質と化学反応の利用→地球と宇宙→科学技術と人間→自然と人間
 ■ 生物の細胞と生殖→運動の規則性→物質と化学反応の利用→地球と宇宙→自然と人間→科学技術と人間
 □ 運動の規則性→生物の細胞と生殖→物質と化学反応の利用→地球と宇宙→自然と人間→科学技術と人間
 ■ その他
 ■ 無答・不明

1分野・2分野を並行では進めない学校が1・2年で9割、3年で8割であった。

■【データ】④発展的な学習の指導状況

**通常の授業の中で発展的な内容を扱う学校が多い。
「フレミングの法則」「日本の天気の特徴」では6割を
超える学校で指導が行われている。**

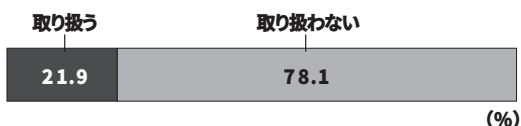
Q

貴校では、発展的な学習として、次のような内容を授業のなかで扱っていますか。

■ 図 2-5 通常の授業で発展的内容の取り扱い

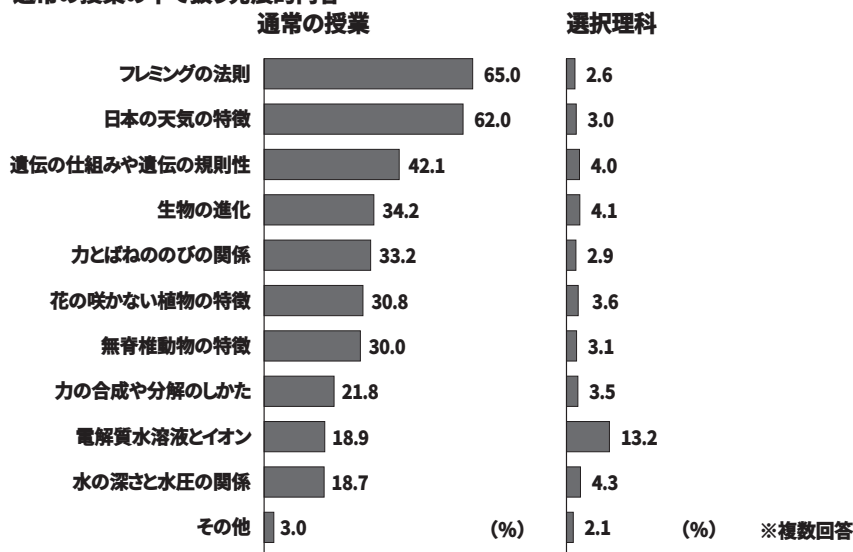


■ 図 2-6 選択理科での発展的内容の取り扱い



※発展的な学習として挙げた項目のうち、いずれか1つでも○をしている場合を「取り扱う」、1つも○のない場合を「取り扱わない」とした。

■ 図 2-7 通常の授業の中で扱う発展的内容



旧学習指導要領から削除された内容で、現在発展的な内容として指導されているものについて調べたところ、通常の授業の中で指導されている場合が多い。中でも、「フレミングの法則」「日本の天気の特徴」「遺伝の仕組みや遺伝の規則性」といった内容は、多くの理科教員が知っておくべきだと考えているようだ。

■【データ】⑤発展的な学習の実践例（自由記述より）

★発展的な学習として、選択肢として挙げた項目以外での実践例を自由記述で記入していただいた。ここでは、その中からいくつかを紹介したい。

【動物実験・動物の生体】

- ブタの心臓と肺の観察
- ニワトリの解剖
- ホタルイカの生体について

【エネルギー問題】

- 日本のエネルギー政策を考える
- 核融合、原子爆弾、平和学習との連携で
プルトニウム、ウラン、放射線について
- エネルギー、燃料電池
- 環境に関わるエネルギー工学
物理の基礎（運動方程式まで）

【独自に工夫した実験】

- 液体窒素、スライム、ブーメラン作り、
ロウソク作りなど
- ガラス細工、サイホンの原理、炭作り、
葉脈標本、浮沈子、カイト（たこ）、綿菓子、
カルメ焼き、温泉卵、使い捨てカイロなど
- 真菌、枯草菌など寒天培地を使った顕微鏡
観察
- おもしろ実験（カメラ、割れないシャボン玉）
- ガラス器具製作
- せっけん作り
- ミョウバンの巨大結晶作り

【日常生活に関連した内容】

- 東海地震について
- 月の運動と満ち欠け
- 電化製品の抵抗測定

【その他】

- フレミングの法則のモーターから発電まで
- プレートテクトニクス
- 海に住む無脊椎動物の分類
- 地層、地震、火山についての基本的・発展的
内容
- 科学史
- ボーアの原子模型と周期表
- ニュートンの万有引力の法則
- 生殖について、人間の発生（性教育を交えて）

発展的な学習の取り扱いとしては、旧学習指導要領から削除された内容や、学習内容を深める実験が行われているケースが多い。動物実験を始め、「せっけん作り」や「ミョウバンの巨大結晶作り」など、教員が独自に工夫した実験の回答が見られた。「エネルギー政策」や「電化製品の抵抗測定」など、日常生活に関連した内容を扱うケースも見られた。

3

社会の 学習指導

(社会教員調査)

【解説】 調査結果から読み取れること

東京家政学院中学校・高等学校校長 佐野金吾

1. 平成17年度の社会の授業の進め方について

学習指導要領に示す社会科の教科構造から地理的分野と歴史的分野を第1・2学年、第3学年では公民的分野を学習することになっている。しかし、1・2学年の社会科は週3時間と授業時間が縮減されたため、地理と歴史を並行して学習する時間割とすることが難しくなった。調査結果では、教科構造の趣旨に添いながらも週内に地理と歴史を交互に指導するよりも、一定期間どちらかの分野を集中して授業するといった交互並行型の進め方が多くなっている。地理・歴史、いずれを先に扱うにしても導入の授業には様々な工夫が必要となろう。小学校と中学校の授業に大きなギャップがあると、生徒に学習への抵抗感を与え、社会科の学習に対して興味・関心を損なってしまう。現在話題になっている、いわゆる「中一プロブレム」といわれている問題は、小学校時の学習状況を考慮せずに中学校の学習ペースでいきなり中学校の学習活動が行われることに起因している。今回の学習指導要領の改訂で、地理も歴史も導入の単元は、小学校の学習成果を生かした調べ学習、作業学習を取り入れた授業を想定した目標・内容となっているので、その趣旨を生かして中学校に入学した生徒の学習状況を十分に考慮した授業展開とする工夫が必要となる。

2. 生徒の様子や指導の状況について

本調査では学力について、知識・理解、関心・意欲・態度、資料活用能力と表現力などの8つの項目について調査している。知識・理解については「やや低くなった」が全体の5割を占め、社会科の指導について一つの課題を提供している。このことの背景としては様々なことが考えられるが、授業時間の縮減もその一つとしてあげられるとしても、最近の中学生の学習離れや授業に集中できない生徒が増えていることなど、生徒の学校の勉強に対する構えが大きく変わったことが要因として考えられる。学習への構え、望ましい学習態度を身に付けていない生徒が多数いるという実態を踏まえた授業の工夫が今後の重要な課題となる。

「インターネットや文献などの資料活用能力」については「やや高まった」が多い。中学生はパソコンを活用することが好きであり、得意であるから、その特性を活かした学習活動を展開することは今後も重視したい。

また、「獲得した知識を成果として発表する力」については「やや高まった」と「以前と変わらない」の2項目で8割となっているが、学習の成果をまとめて発表する学習活動が多く取り入れられるようになった結果であろう。

次の、全体的な学力水準については「やや低くなった」の割合が高いが、これは先の「知識・理解」の項目と同じ要因が考えられる。また「学力格差」については「やや大きくなった」と「以前とは変わらない」の割合が拮抗しているが、「勉強する生徒」と「勉強しない生徒」の二極化の傾向が進んでいるように思われる（詳細は第4章「学力水準・学力格差に関する横断分析」を参照）。学習に集中できない生徒に対する授業の工夫をどう進めるか今後の大きな課題となる。

3. 授業の展開に関連して

まず生徒の社会体験についての問いかけでは「まあ感じる」の割合が最も多くなっている。最近の中学生の生活を見てみると、仲間とともに過ごすよりも自分ひとりで好きなことに取り組む傾向が多くなっているように思われる。きょうだいも少なく、幼少時より自室に閉じこもりひとりで遊びに慣れ、中学生になるとテレビゲームやパソコンに集中している生活が日常化しているためか、他者との付き合いに煩わしさを感じる生徒が多いようだ。こうした日常生活の中では自分で進んで社会に出て様々な体験活動することはほとんどない。しかし、社会で自立できる資質や能力を義務教育時代に身に付けることは中学生の健全な成長のために欠かすことはできない。そこで、今回の学習指導要領の改訂にあたって、様々な体験を重視した学習を意図的に取り入れるよう社会科各分野の目標・内容に十分な配慮が行われている。

例えば、地理や歴史では直接身近な地域社会に触れて学ぶ体験的な学習を重視した内容がある。また、公民では「適切な課題を設けて行う学習」として生徒が主体的に社会的事象に触れて問題解決的な学習に取り組める内容がある。生徒の未熟な社会体験を学習活動によって補充しようとする意図であって、生徒の生活実態、学習状況に十分に配慮した社会科の授業の工夫が求められている。

次に「指導の準備にかけられる時間が足りない」の項目で「とても感じる」「まあ感じる」の比率が高い結果が見られるが、実際には学習に対する基本的な態度が身につけていない生徒が多いことから生徒個々の状況にあわせた生徒指導に時間が割かれていることが考えられる。この項目にかかわって次の「授業をどのレベルに合わせて進めればよいか悩む」も「まあ感じる」の割合が高くなっている。生徒の学習の状況は多様であるし、学習への態度も様々である。しかし、生徒一人ひとりに「確かな学力」を身に付けさせることが教員の使命である。「どのレベルに合わせるか」を配慮することは重要であるが、「どの生徒にも分かる授業、できる授業」とすることが一層重要となる。今回の指導要録の改善によって評価が相対評価から絶対評価に変わったが、これは生徒一人ひとりに学力の保障をねらいとしている。学級の生徒一人ひとりが学習指導要領に示す社会科の目標・内容を確実に実現できる授業、ねらいを達成できる学習内容、指導方法の工夫改善が担当教員に課せられている。

つづいて、高校入試で求められる力と学習指導要領で求められる力とのギャップについての問いかけであるが、「まあ感じる」の割合が高い数値となっている。しかし、最近の公立の高校入試問題の傾向は学習指導要領の趣旨にそうように努力している様子をうかがうことができる。また、「今の学習指導要領では指導内容が不足している」ことについて「とても感じる」「まあ感じる」の割合が最も多いが、縮減された授業時数とのかねあいから指導内容をさらに増やすことは困難と思われる。「少ない内容」をていねいに扱うことによって生徒全員に学習指導要領に示す目標・内容をマスターさせることが重要である。

4. 野外学習について

生徒が野外観察による学習を行う単元は、地理の「身近な地域」と歴史の「身近な地域の歴史」である。これらは生徒が地域の地理的事象や歴史的事象に直接触れて観察・調査をする体験的な学習をすることによって、生徒が目にする社会的事象から学習の対象となる地理的事象、歴史的事象を見出す力を育むことをねらいとしている。野外観察は地理的事象、歴史的事象に関する調べ方を身に付けたり事象の意味を考察したりする社会科の重要な学習活動である。しかし、調査結果では野外観察に授業時間をあてていない割合が3割を占めている。この理由としては交通事情や人的な面など様々な事情が考えられるとしても、学校周辺を観察するとか、生徒の通学時に通学路に沿って野外観察をさせるなど、この学習の趣旨を実現できる授業や学習活動が行われることを期待したい。

5. 内容の取扱いについて

学習指導要領に示す社会科の目標・内容は最低基準であるから、それぞれの学校で工夫した指導計画のもとに学習指導要領に示していない内容を扱うことはできる。調査では「通常の授業」「選択社会」とともに、「よくしている」「ときどきしている」が4割前後であり、このデータからは学校の創意工夫がうかがえる。しかし、学習指導要領に示す目標・内容は生徒の誰もが身に付けるべき最低基準であるから、学習指導要領に示す学習内容を最優先として扱いたい。また、選択社会では学校の実態に応じた学習、例えば郷土史家などの地域の人材を活用したり、地域の様々な社会的事象を活用したりした学習活動については、それが学習指導要領に示す目標にそうものであれば活動内容にこだわることはない。生徒の学習活動が充実したものとなるよう選択社会の一層の工夫を期待したい。

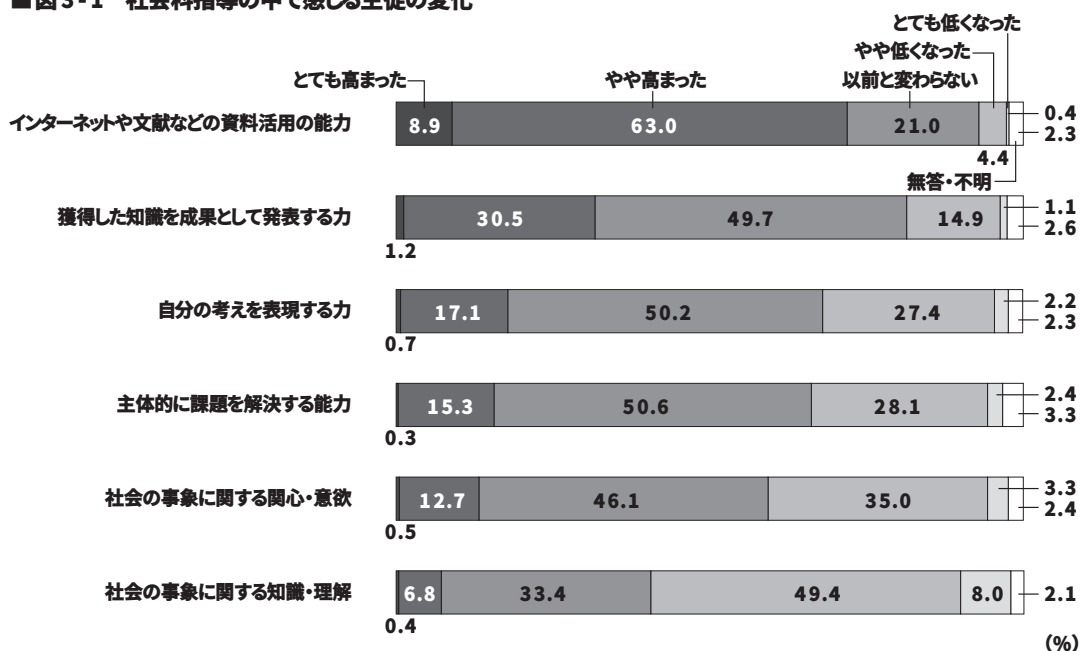
■【データ】①社会科指導の中で感じる生徒の変化

資料活用能力は高まっているが、社会の事象に関する知識・理解、関心・意欲は低くなったと認識している。

Q

社会科をご指導されていて、5年前と比べると最近の生徒はどう変わってきていると思いますか。

■ 図3-1 社会科指導の中で感じる生徒の変化



パソコンやインターネットなどの普及により、「インターネットや文献などの資料活用能力」では、7割以上の教員が「高まった」（「とても高まった」「やや高まった」の合計：71.9%）と答えている。一方で、「社会の事象に関する知識・理解」では5割以上の教員が（「とても低くなった」「やや低くなった」の合計：57.4%）、また、「社会の事象に関する関心・意欲」では約4割の教員が「低くなった」（同：38.3%）と答えている。

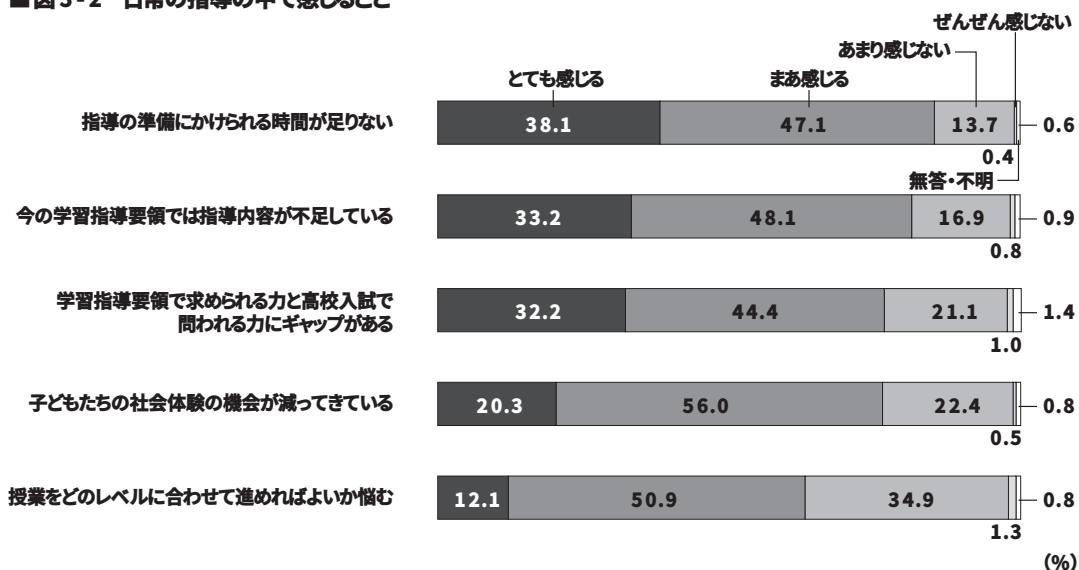
■【データ】②日常の指導の中で感じること

**「今の学習指導要領では指導内容が不足している」
「学習指導要領で求められる力と高校入試で問われる力にギャップがある」がともに7割以上。**



日ごろ授業をしていて、次のように感じることはありますか。

■ 図3-2 日常の指導の中で感じること



「指導の準備にかけられる時間が足りない」（「とても感じる」「まあ感じる」の合計：85.2%）、「今の学習指導要領では指導内容が不足している」（同：81.3%）で8割以上の教員が「感じる」と答えている。また、「学習指導要領で求められる力と高校入試で問われる力にギャップがある」（同：76.6%）、「子どもたちの社会体験の機会が減ってきている」（同：76.3%）も7割以上が「感じる」と答えている。

■【データ】③授業の進め方について

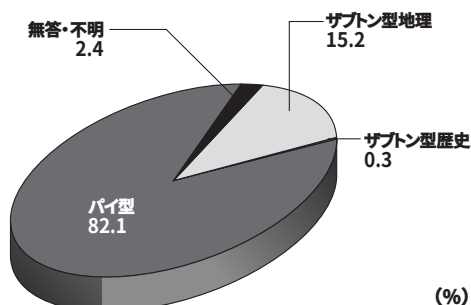
1年・2年ともにパイ型が圧倒的。パイ型の中では「1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う」が多数。

Q

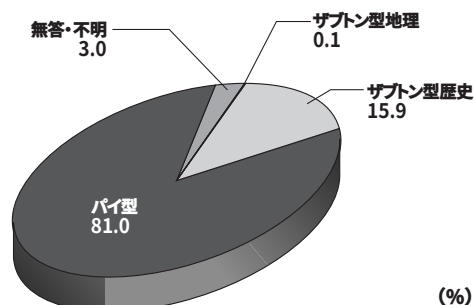
中1・中2では、どのように授業を進められる予定ですか。

■ 図3-3 授業の進め方について

●1年



●2年



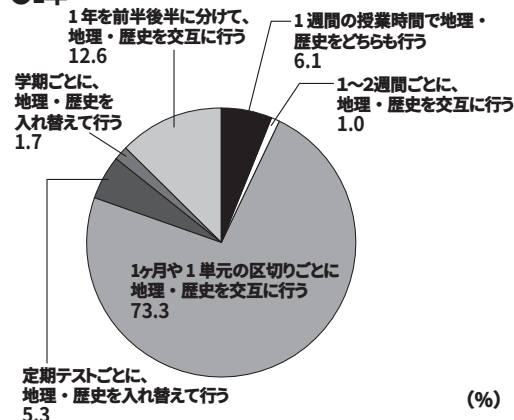
※「パイ型」とは、地理と歴史を1年のうちに両方扱う指導法。「ザブトン型」は1年間地理または歴史どちらか一方のみを扱う指導法。

Q

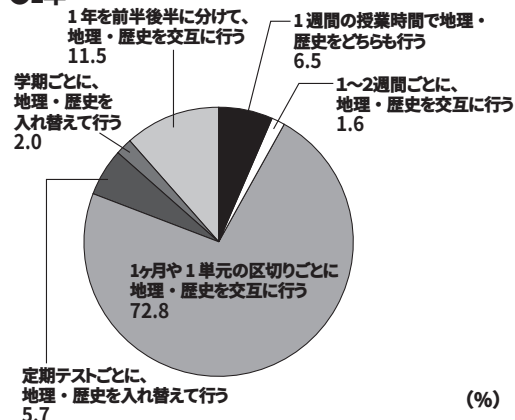
「地理と歴史を両方扱う」に○をつけた場合だけ、お答えください。地理と歴史をどちらも授業で扱われるということですが、具体的にはどのようにされる予定ですか。

■ 図3-4 授業の進め方について

●1年



●2年



中1・中2ともにパイ型が8割以上をしめる。中1ではザブトン型地理、中2ではザブトン型歴史が続き、それぞれ15%程度となっている。パイ型の指導をしている教員のみならず、たずねた、「地理と歴史をどのように指導するか」という設問では、「1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う」が7割以上を占めた。「1年を前半後半に分けて、地理・歴史を交互に行う」は両学年ともに11%～12%程度であった。

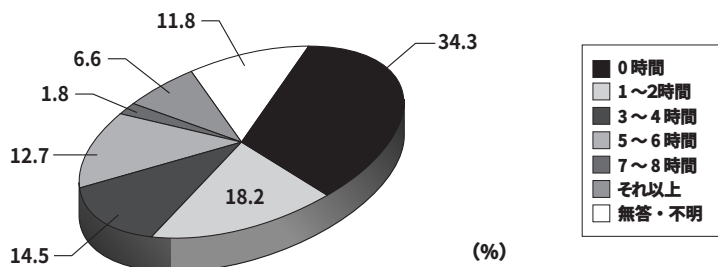
■【データ】④野外観察など学校外の体験的な学習の実施状況

「0時間」と答えた教員が3割強。行っている学校でも「1～2時間」が最も多い。

Q

野外観察（フィールドワーク）などの学校外の体験的な学習を何時間くらい行っていますか。年間でのだいたいの時間（授業時数）をお書きください。

■ 図3-5 野外観察など学校外の体験的な学習の実施状況



野外観察（フィールドワーク）などの学校外の体験的な学習を全く実施していない学校が3割以上にのぼる。「行っている」と答えた学校では「1～2時間」が最も多く、これに「3～4時間」が続く。行っている学校では1時間～4時間程度が一般的と言えそうだ。

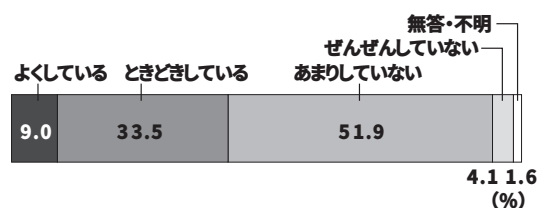
■【データ】⑤学習指導要領外の内容の指導

通常の授業でも選択社会でも4割前後が「している」と答えている。

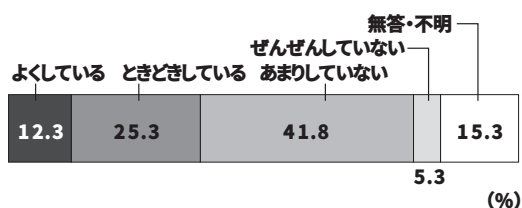
Q

学習指導要領において各分野の内容として示されていない内容を、通常の授業、選択社会の授業の中で指導されていますか。

■ 図3-6 学習指導要領外の内容の指導（通常の授業）



■ 図3-7 学習指導要領外の内容の指導（選択社会）



★自由記述で見られた回答

【新聞記事を使った学習】

- ・ 新聞を用いた授業。年末の10大ニュース（中2・通常の授業）
- ・ NIEの手法を取り入れた授業（中1・通常の授業）
- ・ 新聞記事をもとに、内容の把握の仕方や自分の主張の持ち方などについて指導（中1・選択社会）

【古代文明・歴史】

- ・ 四大文明を詳しく（中1・通常の授業）
- ・ 四大文明やルネサンス、宗教革命、十字軍など詳しく（中2・通常の授業）
- ・ 縄文などの古代文明を追体験する内容（中1・選択社会）
- ・ 1900年代の戦争の歴史（中2・通常の授業）

【その他】

- ・ 平和学習・NGO訪問・裁判傍聴・戦争遺跡などのフィールドワーク（中1・通常の授業）
- ・ 貿易ゲーム、株式学習ゲームなどの経営シミュレーションゲーム（中2・通常の授業）
- ・ 時事問題を解決型で調べ学習する（中2・選択社会）
- ・ 世界の食生活、住居、衣服について（中1・通常の授業）

学習指導要領外の内容を通常の授業、あるいは選択社会で指導しているかをたずねたところ、4割前後が「よくしている」「ときどきしている」と答えている。また、自由記述でその内容をたずねたところ、旧学習指導要領から削除された内容や、新聞や時事問題を取り入れた学習、金融教育に関する記述などが多く見られた。

4

学力水準・ 学力格差に 関する横断分析

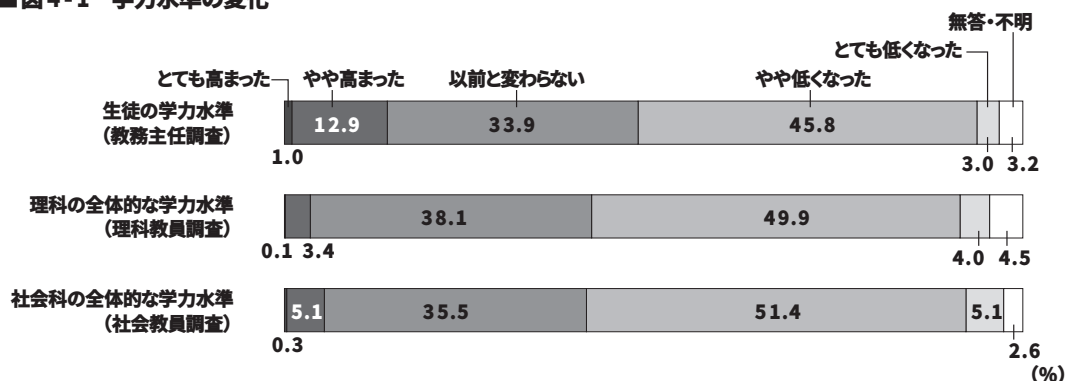
■【データ】学力水準・学力格差の調査間比較

学力水準はどの教科も5割前後が低くなったと回答。学力格差では教務主任調査で5割が大きくなったと答えている。

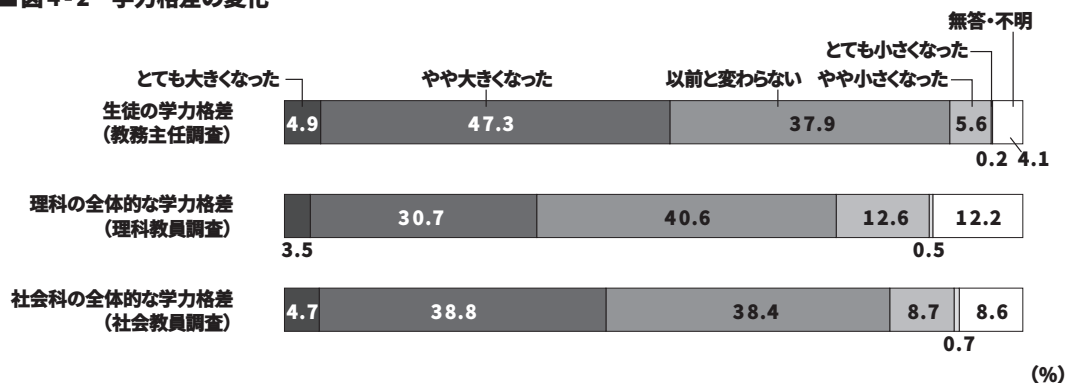
Q

5年前と比べて、生徒の全体的な学力水準、学力格差はどう変わってきていると思いますか。(理科・社会:5年前と比べると最近の生徒はどう変わってきていると思いますか。)

■ 図4-1 学力水準の変化



■ 図4-2 学力格差の変化



学力水準では、どの調査においても学力水準が「低くなった」(「とても低くなった」「やや低くなった」の合計)という回答が5割前後。全般的な生徒の学力水準(教務主任調査)では「やや高まった」という意見も12.9%ある。一方、学力格差については、全般的な生徒の学力格差(教務主任調査)で見ると「大きくなった」(「とても大きくなった」「やや大きくなった」の合計)が5割を超える。

●「中学校の学習指導に関する実態調査2005」協力者

高階 玲治（教育創造研究センター所長）
佐野 金吾（東京家政学院中学校・高等学校校長）
片平 克弘（埼玉大学教授）

●調査企画・分析担当

木村 治生（ベネッセ教育研究開発センター教育調査室長）
青柳 裕子（ベネッセ教育研究開発センター研究員）

●実施協力

藤井 修（ベネッセコーポレーション）
山本 容子（ベネッセコーポレーション）
藤原 祥子（ベネッセコーポレーション）
上田 朗子（ベネッセコーポレーション）

※所属・肩書きは刊行時のものです。

中学校の学習指導に関する実態調査報告書2005 ～教務主任・理科教員・社会教員に対する調査から～

発行：2005年（平成17年）11月25日
発行人：新井 健一
編集人：斎藤 茉莉子
発行所：（株）ベネッセコーポレーション
印刷・製本：コーホク印刷株式会社
企画・制作：ベネッセ教育研究開発センター
〒206-8686 東京都多摩市落合1-34
TEL：042-356-0841／FAX：042-356-7306
スタッフ：（株）ジー・アンド・ピー

© Benesse Educational Research and Development Center
無断転載を禁じます。

Benesse®

株式会社 ベネッセコーポレーション

東京本部

東京都多摩市落合1-34 〒206-8686 TEL (042) 356-1100 (大代表)

52MM10-S

■基礎集計表

(%)

質問項目				全体		
①	貴校での学習指導や取り組みについて	貴校では、今年度、全校的な取り組みとして、次のようなことを行う予定か	朝の読書活動	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	81.2 17.4 1.5	
			放課後の補習授業	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	46.3 50.7 3.1	
			土曜日の授業や補習	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	9.7 88.0 2.3	
			習熟度別授業	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	63.8 33.5 2.7	
			職場（企業や商店など）での体験学習	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	87.2 11.5 1.3	
			市販の標準学力検査	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	66.9 30.9 2.1	
			地域や県などを単位とした学力テスト	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	62.8 35.1 2.1	
			定期テストの回数や日数の削減	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	15.8 82.6 1.6	
			学校行事の削減	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	25.9 72.3 1.8	
			保護者や地域住民による学校評価	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	80.7 17.8 1.5	
			保護者や地域住民による授業支援 （ゲスト講師など）	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	72.1 26.0 1.9	
			学校選択制	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	14.2 82.1 3.7	
			秋休みの実施	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	11.4 86.9 1.7	
			二学期制・二期制	行う予定 行う予定はない 無回答・不明	13.7 48.6 37.7	
			つをコ 期けた行 ・二学期 の二制 開始日 に二 は二を いつか	二学期・二期の開始日	9月11日以前	3.4
					9月19日～25日	1.0
					9月26日～10月2日	9.6
					10月3日～9日	8.9
	10月10日～16日	64.3				
	10月17日～23日	7.0				
	10月24日～30日	2.6				
	10月31日以降	2.9				
				無回答・不明	0.5	

②	生徒の実態や教育に関する施策について	5年前と比べて、生徒の学力水準、学力格差はどのように変わってきていると思うか	生徒の学力水準	とても高まった	1.0
				やや高まった	12.9
				以前と変わらない	33.9
				やや低くなった	45.8
				とても低くなった	3.0
				無回答・不明	3.2
			生徒の学力格差	とても大きくなった	4.9
				やや大きくなった	47.3
				以前と変わらない	37.9
				やや小さくなった	5.6
				とても小さくなった	0.2
				無回答・不明	4.1
③	生徒の実態や教育に関する施策について	次のような指導や取り組みを実施したり、充実したりすることに賛成か	基礎的な学力定着のための指導	とても賛成	77.6
				やや賛成	20.2
				どちらともいえない	1.1
				やや反対	0.1
				とても反対	0.0
				無回答・不明	0.9
			発展的な学習	とても賛成	33.5
				やや賛成	53.3
				どちらともいえない	10.8
				やや反対	1.2
				とても反対	0.1
				無回答・不明	1.1
			「総合的な学習の時間」	とても賛成	9.6
				やや賛成	24.8
				どちらともいえない	33.1
				やや反対	21.1
				とても反対	10.1
				無回答・不明	1.2
			キャリア教育や進路学習	とても賛成	26.8
				やや賛成	50.2
				どちらともいえない	19.4
				やや反対	2.1
				とても反対	0.4
				無回答・不明	1.1
			「心の教育」	とても賛成	46.6
				やや賛成	37.3
				どちらともいえない	12.3
				やや反対	1.6
				とても反対	1.0
				無回答・不明	1.1
			選択教科	とても賛成	12.5
				やや賛成	33.6
				どちらともいえない	30.1
				やや反対	17.3
				とても反対	5.3
				無回答・不明	1.1
			習熟度別授業	とても賛成	20.9
				やや賛成	45.9
				どちらともいえない	23.9
				やや反対	6.3
				とても反対	1.9
				無回答・不明	1.2
			土曜日の授業や補習	とても賛成	5.4
				やや賛成	8.0
				どちらともいえない	30.1
				やや反対	24.5
				とても反対	30.8
				無回答・不明	1.3
			学校選択制	とても賛成	3.4
				やや賛成	13.2
				どちらともいえない	48.3
				やや反対	18.5
				とても反対	14.3
				無回答・不明	2.3
			二学期制・二期制	とても賛成	6.9
				やや賛成	13.7
				どちらともいえない	44.6
				やや反対	19.7
				とても反対	13.9
				無回答・不明	1.2

③	生徒の実態や教育に関する施策について	次のような指導や取り組みを実施したり、充実したりすること に賛成か	全国規模の学力テスト		とても賛成	11.3
					やや賛成	28.3
					どちらともいえない	37.0
					やや反対	12.8
					とても反対	9.5
					無回答・不明	1.1
			教員の人事考課制度		とても賛成	4.4
					やや賛成	15.9
					どちらともいえない	47.7
					やや反対	15.6
					とても反対	14.4
					無回答・不明	2.1
			保護者や地域住民による学校評価		とても賛成	16.3
					やや賛成	48.7
					どちらともいえない	27.8
					やや反対	4.9
					とても反対	1.4
					無回答・不明	0.8
			保護者や地域住民による授業支援		とても賛成	24.5
					やや賛成	52.4
					どちらともいえない	20.2
					やや反対	1.8
					とても反対	0.4
					無回答・不明	0.8
			学校のIT化		とても賛成	24.3
					やや賛成	47.1
					どちらともいえない	23.7
					やや反対	3.2
					とても反対	0.9
					無回答・不明	0.8
④	定期テストの実施時期について	定期テストの実施の有無	1学期の中間テスト	1年生	有	66.0
				2年生	有	65.9
				3年生	有	65.4
			1学期の期末テスト	1年生	有	96.6
				2年生	有	96.5
				3年生	有	96.2
			2学期の中間テスト	1年生	有	87.8
				2年生	有	87.6
				3年生	有	86.8
			2学期の期末テスト	1年生	有	96.6
				2年生	有	96.5
				3年生	有	95.0
			3学期の中間テスト	1年生	有	2.8
				2年生	有	2.8
				3年生	有	4.6
			3学期の期末テスト	1年生	有	79.5
				2年生	有	79.4
				3年生	有	71.4
			その他回答有無		有	53.7
		定期テストの開始日	1学期中間テスト開始日 (二学期制採択校)	5月23日～29日		8.2
				5月30日～6月5日		12.2
				6月6日～12日		14.9
				6月13日～19日		22.3
				6月20日～26日		21.3
				6月27日～7月3日		10.2
				7月4日～10日		1.7
				その他		6.2
			1学期中間テスト開始日 (三学期制採択校)	5月9日～15日		8.3
				5月16日～22日		23.8
				5月23日～29日		43.8
				5月30日～6月5日		18.2
				6月6日～12日		1.1
				6月13日～19日		0.4
				6月20日～26日		0.7
				6月27日～7月3日		0.1
				その他		0.3
				無回答・不明		3.1

④	定期テストの実施時期について	定期テストの開始日	1学期期末テスト開始日 (二学期制採択校)	8月29日～9月4日	7.2
				9月5日～11日	14.6
				9月12日～18日	28.3
				9月19日～25日	13.4
				9月26日～10月2日	12.2
				10月3日～9日	2.2
				その他	18.9
				無回答・不明	3.1
			1学期期末テスト開始日 (三学期制採択校)	6月13日～19日	3.0
				6月20日～26日	21.8
				6月27日～7月3日	52.8
				7月4日～10日	16.5
				7月11日～17日	1.2
				7月18日～24日	0.2
				7月25日～31日	0.4
				その他	1.2
				無回答・不明	2.8
			2学期中間テスト開始日 (二学期制採択校)	11月14日～20日	9.8
				11月21日～27日	24.2
				11月28日～12月4日	27.1
				12月5日～11日	15.2
				12月12日～18日	4.9
				その他	15.9
				無回答・不明	2.9
			2学期中間テスト開始日 (三学期制採択校)	9月19日～25日	1.8
				9月26日～10月2日	6.9
				10月3日～9日	18.5
				10月10日～16日	26.8
				10月17日～23日	28.0
				10月24日～30日	12.3
				その他	2.5
				無回答・不明	3.1
			2学期期末テスト開始日 (二学期制採択校)	2月13日～19日	16.3
				2月20日～26日	30.9
				2月27日～3月5日	24.9
				3月6日～12日	7.2
				3月13日～19日	1.2
				その他	16.3
				無回答・不明	3.1
			2学期期末テスト開始日 (三学期制採択校)	11月14日～20日	6.8
				11月21日～27日	26.8
				11月28日～12月4日	48.9
				12月5日～11日	13.3
				12月12日～18日	1.1
				12月19日～25日	0.3
				12月26日～1月1日	0.2
				その他	1.2
				無回答・不明	1.4
			3学期中間テスト開始日 (三学期制採択校)	1月9日～15日	17.6
				1月16日～22日	16.2
				1月23日～29日	16.2
				1月30日～2月5日	17.6
				2月6日～12日	2.7
				2月13日～19日	9.5
				その他	9.5
				無回答・不明	10.8
			3学期期末テスト開始日 (三学期制採択校)	1月30日～2月5日	0.8
				2月6日～12日	0.9
				2月13日～19日	13.6
				2月20日～26日	34.0
				2月27日～3月5日	37.6
				3月6日～12日	9.7
				3月13日～19日	0.5
				その他	1.0
				無回答・不明	2.0

■基礎集計表

(%)

①

質問項目			合計	学年			
				1年	2年	3年	
平成17年度の理科の授業の進め方について	どのように授業を進める予定か		1分野・2分野を並行で進める	9.6	8.5	8.7	11.8
			並行では進めない	87.9	90.7	91.0	81.2
			無回答・不明	2.6	0.8	0.3	7.0
	「1分野・2分野を並行で進める」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中1) SQ1・1分野の単元をどの順序で進めるか	身近な物理現象→身の回りの物質		87.9		
			身の回りの物質→身近な物理現象		12.1		
	(中1) SQ1・2分野の単元をどの順序で進めるか	植物の生活と種類→大地の変化		98.1			
		大地の変化→植物の生活と種類		1.9			
	「並行では進めない」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中1) SQ2・それぞれの単元をどのような順序で進める予定か	植物の生活と種類→身近な物理現象→身の回りの物質→大地の変化		69.4		
			植物の生活と種類→身近な物理現象→大地の変化→身の回りの物質		13.3		
			身近な物理現象→植物の生活と種類→身の回りの物質→大地の変化		6.4		
			身近な物理現象→植物の生活と種類→大地の変化→身の回りの物質		5.2		
			植物の生活と種類→身の回りの物質→身近な物理現象→大地の変化		2.5		
			植物の生活と種類→大地の変化→身近な物理現象→身の回りの物質		1.1		
			その他		2.1		
	「1分野・2分野を平行で進める」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中2) SQ1・1分野の単元をどの順序で進めるか	電流とその利用→化学変化と原子、分子			90.0	
			化学変化と原子、分子→電流とその利用			10.0	
	(中2) SQ1・2分野の単元をどの順序で進めるか	動物の生活と種類→天気とその変化				95.6	
		天気とその変化→動物の生活と種類				4.4	
	「並行では進めない」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中2) SQ2・それぞれの単元をどのような順序ですすめる予定か	電流とその利用→動物の生活と種類→化学変化と原子、分子→天気とその変化			44.1	
			動物の生活と種類→電流とその利用→化学変化と原子、分子→天気とその変化			32.3	
			動物の生活と種類→電流とその利用→天気とその変化→化学変化と原子、分子			10.4	
			電流とその利用→動物の生活と種類→天気とその変化→化学変化と原子、分子			6.8	
			電流とその利用→化学変化と原子、分子→動物の生活と種類→天気とその変化			1.4	
			動物の生活と種類→化学変化と原子、分子→電流とその利用→天気とその変化			1.4	
			化学変化と原子、分子→動物の生活と種類→電流とその利用→天気とその変化			1.1	
			その他			2.4	

①	平成17年度の理科の授業の進め方について	「1分野・2分野を平行で進める」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中3) SQ1・1分野の単元をどの順序で進めるか	運動の規則性→物質と化学反応の利用→科学技術と人間				85.8
				物質と化学反応の利用→運動の規則性→科学技術と人間				8.3
				運動の規則性→科学技術と人間→物質と化学反応の利用				3.3
①	平成17年度の理科の授業の進め方について	「1分野・2分野を平行で進める」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中3) SQ1・2分野の単元をどの順序で進めるか	物質と化学反応の利用→科学技術と人間→運動の規則性				1.7
				科学技術と人間→運動の規則性→物質と化学反応の利用				0.4
				科学技術と人間→物質と化学反応の利用→運動の規則性				0.4
①	平成17年度の理科の授業の進め方について	「並行では進めない」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中3) SQ2・それぞれの単元をどのような順序ですすすめる予定か	生物の細胞と生殖→地球と宇宙→自然と人間				82.5
				生物の細胞と生殖→自然と人間→地球と宇宙				7.5
				地球と宇宙→自然と人間→生物の細胞と生殖				4.2
①	平成17年度の理科の授業の進め方について	「並行では進めない」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中3) SQ2・それぞれの単元をどのような順序ですすすめる予定か	地球と宇宙→生物の細胞と生殖→自然と人間				3.8
				自然と人間→生物の細胞と生殖→地球と宇宙				1.3
				自然と人間→地球と宇宙→生物の細胞と生殖				0.4
①	平成17年度の理科の授業の進め方について	「並行では進めない」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中3) SQ2・それぞれの単元をどのような順序ですすすめる予定か	無回答・不明				0.4
				生物の細胞と生殖→運動の規則性→物質と化学反応の利用→地球と宇宙→科学技術と人間→自然と人間				18.2
				運動の規則性→生物の細胞と生殖→物質と化学反応の利用→地球と宇宙→科学技術と人間→自然と人間				17.2
①	平成17年度の理科の授業の進め方について	「並行では進めない」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中3) SQ2・それぞれの単元をどのような順序ですすすめる予定か	生物の細胞と生殖→運動の規則性→物質と化学反応の利用→地球と宇宙→自然と人間→科学技術と人間				13.1
				運動の規則性→生物の細胞と生殖→物質と化学反応の利用→地球と宇宙→自然と人間→科学技術と人間				10.3
				生物の細胞と生殖→運動の規則性→地球と宇宙→物質と化学反応の利用→科学技術と人間→自然と人間				7.6
①	平成17年度の理科の授業の進め方について	「並行では進めない」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中3) SQ2・それぞれの単元をどのような順序ですすすめる予定か	生物の細胞と生殖→運動の規則性→地球と宇宙→物質と化学反応の利用→科学技術と人間→自然と人間				7.1
				生物の細胞と生殖→運動の規則性→物質と化学反応の利用→科学技術と人間→地球と宇宙→自然と人間				6.3
				運動の規則性→生物の細胞と生殖→物質と化学反応の利用→科学技術と人間→地球と宇宙→自然と人間				4.1
①	平成17年度の理科の授業の進め方について	「並行では進めない」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中3) SQ2・それぞれの単元をどのような順序ですすすめる予定か	運動の規則性→物質と化学反応の利用→科学技術と人間→生物の細胞と生殖→地球と宇宙→自然と人間				1.5
				運動の規則性→物質と化学反応の利用→科学技術と人間→生物の細胞と生殖→地球と宇宙→自然と人間				1.2
				運動の規則性→生物の細胞と生殖→地球と宇宙→物質と化学反応の利用→科学技術と人間→自然と人間				1.2
①	平成17年度の理科の授業の進め方について	「並行では進めない」に○をつけた場合だけ、お答えください	(中3) SQ2・それぞれの単元をどのような順序ですすすめる予定か	その他				12.1
				無回答・不明				0.1
				ある				10.1
②	で平成17年度の積み残し単元はありますか	中3の4月時点で中2からの積み残しがあるか	中3・4月はこの単元の内容からスタートしたか	ない				81.1
				無回答・不明				8.8
				電流とその利用				6.3
②	で平成17年度の積み残し単元はありますか	「ある」に○をつけた場合だけ、お答えください	中3・4月はこの単元の内容からスタートしたか	化学変化と原子、分子				28.8
				動物の生活と種類				2.4
				天気とその変化				53.2
②	で平成17年度の積み残し単元はありますか	「ある」に○をつけた場合だけ、お答えください	中3・4月はこの単元の内容からスタートしたか	その他				3.9
				無回答・不明				5.4

③	生徒の様子や指導の状況について	発展的な学習として、次のような内容を授業のなかで扱っていますか	力の合成や分解のしかた (通常)	あてはまる	21.8			
			力の分解や合成のしかた (選択)	あてはまる	3.5			
④	生徒の様子や指導の状況について	理科をご指導されていて、5年前と比べると最近の生徒はどう変わってきていると思いますか。	力とばねののびの関係 (通常)	あてはまる	33.2			
			力とばねののびの関係 (選択)	あてはまる	2.9			
			水の深さと水圧の関係 (通常)	あてはまる	18.7			
			水の深さと水圧の関係 (選択)	あてはまる	4.3			
			フレミングの法則 (通常)	あてはまる	65.0			
			フレミングの法則 (選択)	あてはまる	2.6			
			電解質水溶液とイオン (通常)	あてはまる	18.9			
			電解質水溶液とイオン (選択)	あてはまる	13.2			
			花の咲かない植物の特徴 (通常)	あてはまる	30.8			
			花の咲かない植物の特徴 (選択)	あてはまる	3.6			
			無脊椎動物の特徴 (通常)	あてはまる	30.0			
			無脊椎動物の特徴 (選択)	あてはまる	3.1			
			日本の天気の特徴 (通常)	あてはまる	62.0			
			日本の天気の特徴 (選択)	あてはまる	3.0			
			遺伝の仕組みや遺伝の規則性 (通常)	あてはまる	42.1			
			遺伝の仕組みや遺伝の規則性 (選択)	あてはまる	4.0			
			生物の進化 (通常)	あてはまる	34.2			
			生物の進化 (選択)	あてはまる	4.1			
			その他 (通常)	あてはまる	3.0			
			その他 (選択)	あてはまる	2.1			
④	生徒の様子や指導の状況について	理科をご指導されていて、5年前と比べると最近の生徒はどう変わってきていると思いますか。	自然の事象に関する知識・理解	とても高まった	0.2	0.2	0.2	0.2
				やや高まった	6.1	6.4	5.7	6.1
				以前と変わらない	43.4	45.1	43.3	41.4
				やや低くなった	41.5	38.3	41.5	45.5
				とても低くなった	4.6	4.6	4.8	4.5
				無回答・不明	4.2	5.4	4.6	2.3
			自然の事象に関する関心・意欲	とても高まった	0.4	0.4	0.4	0.4
				やや高まった	9.0	9.2	8.7	9.0
				以前と変わらない	54.5	55.6	53.0	54.5
				やや低くなった	29.0	26.8	29.9	30.8
				とても低くなった	2.9	2.7	3.3	2.8
				無回答・不明	4.2	5.2	4.7	2.6
			観察や実験の技能	とても高まった	0.3	0.2	0.3	0.3
				やや高まった	6.7	7.4	5.8	6.8
				以前と変わらない	44.1	43.3	44.4	44.8
				やや低くなった	39.4	38.5	39.5	40.5
				とても低くなった	5.2	5.3	5.3	4.9
				無回答・不明	4.3	5.3	4.7	2.7

④	生徒の様子や指導の状況について	理科をご指導されていて、5年前と比べると最近の生徒はどう変わってきていると思いますか。	論理的にものを考える力	とても高まった	0.1	0.0	0.1	0.1
				やや高まった	2.8	2.9	2.7	2.8
				以前と変わらない	32.0	32.7	31.6	31.4
				やや低くなった	50.4	48.3	50.0	53.6
				とても低くなった	10.3	10.4	11.0	9.5
				無回答・不明	4.4	5.7	4.5	2.7
			獲得した知識を成果として発表する力	とても高まった	0.3	0.3	0.3	0.4
				やや高まった	16.5	16.6	14.8	18.1
				以前と変わらない	48.2	49.0	47.9	47.4
				やや低くなった	27.2	25.6	28.2	28.3
				とても低くなった	3.3	2.9	3.8	3.3
				無回答・不明	4.4	5.5	5.0	2.5
			学習内容を生活にあてはめて考える力	とても高まった	0.1	0.1	0.1	0.1
				やや高まった	6.2	6.2	5.9	6.6
				以前と変わらない	48.3	49.3	48.4	46.9
				やや低くなった	36.0	34.0	36.2	38.2
				とても低くなった	4.8	4.8	4.5	5.3
				無回答・不明	4.6	5.7	5.0	2.9
			理科の全体的な学力水準	とても高まった	0.1	0.1	0.1	0.1
				やや高まった	3.4	3.1	3.2	3.8
				以前と変わらない	38.1	39.4	39.3	35.5
				やや低くなった	49.9	47.9	48.5	53.6
				とても低くなった	4.0	3.7	3.9	4.5
				無回答・不明	4.5	5.7	4.9	2.6
			理科の全体的な学力格差	とても大きくなった	3.5	3.1	3.8	3.7
				やや大きくなった	30.7	29.5	29.4	33.5
				以前と変わらない	40.6	39.7	41.3	41.0
				やや小さくなった	12.6	11.8	12.2	13.9
				とても小さくなった	0.5	0.4	0.5	0.4
				無回答・不明	12.2	15.6	12.8	7.5
⑤	生徒の様子や指導の状況について	日ごろ授業をしていて、次のように感じることはありますか。	子どもたちの「理科ばなれ」がすすんでいる	とても感じる	4.4	4.3	4.7	4.0
				まあ感じる	37.4	37.1	37.7	37.4
				あまり感じない	52.5	52.1	52.2	53.2
				ぜんぜん感じない	4.6	5.3	3.4	4.9
				無回答・不明	1.2	1.2	1.8	0.4
			子どもたちの自然体験の機会が減ってきている	とても感じる	32.2	30.5	32.6	33.9
				まあ感じる	53.2	53.8	53.1	52.6
				あまり感じない	13.0	13.9	12.1	12.6
				ぜんぜん感じない	0.8	1.0	0.8	0.7
				無回答・不明	0.8	0.8	1.5	0.2
			指導の準備にかけられる時間が足りない	とても感じる	42.9	44.4	43.1	41.0
				まあ感じる	41.5	40.8	41.3	42.7
				あまり感じない	14.0	13.2	13.5	15.5
				ぜんぜん感じない	0.5	0.6	0.5	0.4
				無回答・不明	1.0	1.0	1.6	0.4
			実験を行う時間が十分にとれない	とても感じる	19.5	19.3	19.2	19.9
				まあ感じる	40.8	41.6	40.3	40.3
				あまり感じない	36.0	35.5	36.2	36.2
				ぜんぜん感じない	2.6	2.2	2.5	3.0
				無回答・不明	1.2	1.3	1.8	0.5
			授業をどのレベルに合わせて進めればよいか悩む	とても感じる	8.1	7.7	8.0	8.6
				まあ感じる	40.1	40.3	40.6	39.3
				あまり感じない	46.8	47.0	46.1	47.2
				ぜんぜん感じない	3.7	3.8	3.2	4.1
				無回答・不明	1.4	1.2	2.1	0.8
			今の学習指導要領では指導内容が不足している	とても感じる	39.4	36.8	37.3	44.8
				まあ感じる	47.2	48.9	46.9	45.3
				あまり感じない	11.6	12.7	13.0	8.8
				ぜんぜん感じない	0.5	0.6	0.5	0.5
				無回答・不明	1.3	1.1	2.3	0.5

■基礎集計表

(%)

質問項目				全体	学年		
					1年	2年	
①	平成17年度の社会の授業の進め方について	どのように授業を進めるか	1年間地理だけを扱う	8.5	15.2	0.1	
			1年間歴史だけを扱う	7.3	0.3	15.9	
			地理と歴史を両方扱う	81.6	82.1	81.0	
			無回答・不明	2.6	2.4	3.0	
		「地理と歴史を両方扱う」に○をつけた場合だけ、お答えください	地理と歴史をどのように指導するか	1週間の授業時間で地理・歴史をどちらも行う	6.3	6.1	6.5
				1～2週間ごとに、地理・歴史を交互に行う	1.3	1.0	1.6
				1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う	73.1	73.3	72.8
				定期テストごとに、地理・歴史を入れ替えて行う	5.5	5.3	5.7
				学期ごとに、地理・歴史を入れ替えて行う	1.8	1.7	2.0
				1年を前半後半に分けて、地理・歴史を交互に行う	12.1	12.6	11.5
				「学期ごとに、地理・歴史を入れ替えて行う」に○をつけた場合だけ、お答えください	地理と歴史の指導順序	地理→歴史→地理	34.0
		地理→地理→歴史	11.3			22.2	0.0
		地理→歴史→歴史	22.6			22.2	23.1
		歴史→地理→歴史	20.8			3.7	38.5
		歴史→歴史→地理	9.4			3.7	15.4
		歴史→地理→地理	1.9			0.0	3.8
		「1年を前半後半に分けて…」に○をつけた場合だけに、お答えください	地理と歴史どちらを先に扱うか	歴史から授業を始める	30.4	10.3	58.1
				地理から授業を始める	69.6	89.7	41.9
②	生徒の様子や指導の状況について	社会科をご指導されていて、5年前と比べると最近の生徒はどう変わってきていると思いますか	社会の事象に関する知識・理解	とても高まった	0.4	0.3	0.5
				やや高まった	6.8	6.6	6.9
				以前と変わらない	33.4	33.4	33.4
				やや低くなった	49.4	50.4	48.1
				とても低くなった	8.0	7.5	8.5
			社会の事象に関する関心・意欲	無回答・不明	2.1	1.8	2.5
				とても高まった	0.5	0.5	0.6
				やや高まった	12.7	12.6	12.9
				以前と変わらない	46.1	46.4	45.6
				やや低くなった	35.0	35.5	34.3
			主体的に課題を解決する能力	とても低くなった	3.3	3.1	3.6
				無回答・不明	2.4	1.9	3.0
				とても高まった	0.3	0.3	0.4
				やや高まった	15.3	14.9	15.9
				以前と変わらない	50.6	51.4	49.7
			インターネットや文献などの資料活用能力	やや低くなった	28.1	28.3	27.7
				とても低くなった	2.4	2.6	2.1
				無回答・不明	3.3	2.6	4.2
				とても高まった	8.9	8.7	9.1
				やや高まった	63.0	63.7	62.1
			獲得した知識を成果として発表する力	以前と変わらない	21.0	20.5	21.6
				やや低くなった	4.4	4.7	4.1
				とても低くなった	0.4	0.5	0.4
				無回答・不明	2.3	2.0	2.7
				とても高まった	1.2	1.3	1.1
			自分の考えを表現する力	やや高まった	30.5	30.5	30.4
				以前と変わらない	49.7	49.3	50.2
				やや低くなった	14.9	15.3	14.4
				とても低くなった	1.1	1.2	1.1
				無回答・不明	2.6	2.4	2.8
				とても高まった	0.7	0.6	0.8
				やや高まった	17.1	16.9	17.5
				以前と変わらない	50.2	51.1	49.2
				やや低くなった	27.4	27.4	27.5
				とても低くなった	2.2	2.1	2.3
				無回答・不明	2.3	2.0	2.8

②	生徒の様子や指導の状況について	社会科をご指導されて、5年前と比べると近い生徒はどう変わってきていると思いますか	社会科の全体的な学力水準	とても高まった	0.3	0.2	0.4
				やや高まった	5.1	4.7	5.6
				以前と変わらない	35.5	35.5	35.5
				やや低くなった	51.4	52.6	49.8
				とても低くなった	5.1	4.9	5.4
			社会科の全体的な学力格差	無回答・不明	2.6	2.1	3.3
				とても大きくなった	4.7	5.1	4.2
				やや大きくなった	38.8	39.3	38.2
				以前と変わらない	38.4	38.8	37.9
				やや小さくなった	8.7	8.6	8.9
③	生徒の様子や指導の状況について	日ごろ授業をしていて、次のように感じることありますか	子どもたちの社会体験の機会が減ってきている	とても感じる	20.3	20.5	20.0
				まあ感じる	56.0	55.8	56.2
				あまり感じない	22.4	22.4	22.3
				ぜんぜん感じない	0.5	0.6	0.5
				無回答・不明	0.8	0.7	0.9
			指導の準備にかけられる時間が足りない	とても感じる	38.1	38.4	37.8
				まあ感じる	47.1	47.0	47.3
				あまり感じない	13.7	13.6	13.8
				ぜんぜん感じない	0.4	0.5	0.4
				無回答・不明	0.6	0.6	0.7
			授業をどのレベルに合わせて進めればよいか悩む	とても感じる	12.1	12.1	12.1
				まあ感じる	50.9	50.3	51.6
				あまり感じない	34.9	35.7	33.9
				ぜんぜん感じない	1.3	1.2	1.6
				無回答・不明	0.8	0.7	0.9
			学習指導要領で求められる力と高校入試で問われる力にギャップがある	とても感じる	32.2	32.1	32.3
				まあ感じる	44.4	45.1	43.4
				あまり感じない	21.1	20.8	21.4
				ぜんぜん感じない	1.0	0.6	1.5
				無回答・不明	1.4	1.3	1.4
			今の学習指導要領では指導内容が不足している	とても感じる	33.2	33.2	33.2
				まあ感じる	48.1	48.1	48.2
				あまり感じない	16.9	17.0	16.7
				ぜんぜん感じない	0.8	0.8	0.9
				無回答・不明	0.9	0.9	1.0
④	生徒の様子や指導の状況について	野外観察などの学校外の体験的な学習を何時間ぐらい行っていますか	野外観察の時間数	0	34.3	32.1	37.0
				1時間くらい	4.1	4.6	3.6
				2時間くらい	14.1	15.4	12.6
				3時間くらい	7.0	7.7	6.2
				4時間くらい	7.5	7.9	7.0
				5時間くらい	7.0	7.4	6.5
				6時間くらい	5.7	5.9	5.5
				7時間くらい	0.3	0.4	0.3
				8時間くらい	1.5	1.3	1.8
				9時間くらい	0.2	0.2	0.1
				10時間くらい	3.4	3.8	3.0
				12時間くらい	0.5	0.5	0.4
				14時間くらい	0.1	0.0	0.1
				15時間くらい	0.5	0.6	0.4
				16時間くらい	0.2	0.2	0.2
				18時間くらい	0.3	0.2	0.4
				20時間くらい	0.8	0.8	0.8
				24時間くらい	0.1	0.1	0.1
				25時間くらい	0.1	0.1	0.1
				30時間くらい	0.3	0.2	0.6
				35時間くらい	0.1	0.1	0.1
				40時間くらい	0.1	0.1	0.1
				70時間くらい	0.0	0.1	0.0
				無回答・不明	11.8	10.5	13.4

⑤	生徒の様子や指導の状況について	学習指導要領外の内容の扱い (通常の授業)	よくしている	9.0	8.9	9.0
			ときどきしている	33.5	32.7	34.5
			あまりしていない	51.9	53.0	50.5
			ぜんぜんしていない	4.1	4.0	4.1
			無回答・不明	1.6	1.4	1.8
		学習指導要領外の内容の扱い (選択社会の授業)	よくしている	12.3	11.4	13.3
			ときどきしている	25.3	24.5	26.3
			あまりしていない	41.8	43.3	39.9
			ぜんぜんしていない	5.3	5.6	5.0
			無回答・不明	15.3	15.1	15.6
		学習指導要領外の内容の具 体的記述	記述なし	51.5	52.3	50.4
			記述あり	48.5	47.7	49.6